●国際食料情報学部食料環境経済学科（高一種免（農業））

①教員養成に対する理念

食料環境経済学科では、主として社会科学の手法を基礎としながら、多角的な視野から社会問題をとらえ、教育現場で実践的に活躍できる人材育成を行う。ローカルな価値観を重視する地域的な視点、国全体の共益を実現していく国民的な視点、さらにはグローバル化時代のなかで地球全体の持続性を確保していく国際的な視点というように、社会問題の背景にある多様な見方を醸成していく。また、様々な実習や演習さらには講義等を通じて、学生が能動的に学んで自らの人間性を高めていくことの重要性を認識するとともに、授業の指導力のみならず、学級運営、行事企画、生徒指導、進路指導にも的確な指導力を発揮して、生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばしていく教員の養成をめざす。

大学全体として農学教育の一端を担っている本学科において、「農」を通じて教育することの意義と価値を理解・実践できる人材を養成する。生物を扱うことで、いのちの大切さを改めて認識し、様々な教育的課題に対処できる教員を養成する。また、作物や家畜を育てることを通じて、職業としての教育者の責任感ややりがいとを体得する。

②教職課程の設置趣旨

専門的職業人としての農業経営者を育成するためには、社会科学的な視点が欠かせない。とくに、農業経済、農業経営、農政などの面で十分に指導できる人材が必要である。農産物は工業製品などとは異なる性質をもっており、需要側・供給側双方の特性をふまえて、価格決定の仕組みや生産計画を立てる必要がある。また、社会の実情に合わせるため農政は変化が著しく、最新の情報に通じているとともに、変化の状況を調べることのできる能力も必要である。このようなことを理解した上で、生徒を指導できる人材を本学科で育成する。

農業高校を卒業してすぐに就農する者が限られている状況のなかで、農業に関連するような部門で幅広く活躍する人も求められている。そうした指導を可能にするためには、農産物の生産部門だけではなく、流通、消費、さらには廃棄物や農村景観などといった環境との関連も含めたフードシステムの理解が重要である。本学科では、以上を理解した上で生徒を指導し、地域経済・社会を支える職業人を輩出する人材育成を行う。